

もりの森の話

第26話

後志森林管理署

松江 倫代

採用二年目の若手職員のコーナーです

昨年の4月から後志森林管理署に勤務し、早くも1年が経ちました。

後志森林管理署のある倶知安町は、北海道の中でも一、二を争うほどの豪雪地で、スキー場が多い地域としても知られています。

私は雪が降らない地域の出身なので雪かきの経験も無く、職場の先輩方に教えてもらいながら初めての雪かきに悪戦苦闘した冬でした。

【私の担当業務】

署内では1年目から継続して、「森林ふれあい」の業務を担当しています。具体的には、国有林の入林の手続きや、国民参加の森林づくり協定、レクリエーションの森関連が主な業務内容となっています。ここではその中でも、メインで行っている入林の手続きについて触れたいと思います。

国有林への入林には、入林届を出していただく必要があります。最近とても多いのは「無人航空機を飛行させる場合の入林届」で、

いわゆる「ドローン」を国有林内で飛行させる際に提出が必要なものです。

管内には、登別温泉、洞爺湖、神仙沼など自然豊かな観光地が数多くあり、その綺麗な風景を空撮しようとする人が入林届を提出されます。



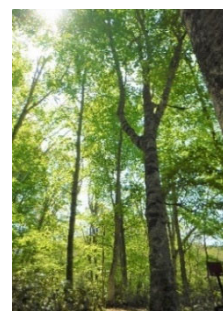
洞爺湖中島からの風景
(ドローンによる撮影)

数が多いため処理をするのは大変ですが、それだけ多くの人に親しんでいただけているということでもあり、嬉しく感じています。

【北限のブナ林】

管内の黒松内町歌才国有林には「北限のブナ林」と呼称されるブナ原生林があります。この歌才ブナ林は天然記念物や希少個体群保護林にも指定されており、

当署では「黒松内町ブナセントリー」と連携しながら、維持管理を進めています。ところで、この「北限の



歌才ブナ林

ブナ林」がどのようにして出来上がったのかについては、様々な仮説があるようです。そのうちの一つ、「北進途上説」について紹介したいと思います。

「北進途上説」とは、現在もブナが北に向かって移動を続けているという仮説です。この仮説を裏付けるものとして、黒松内町より北の地域にブナの集団が発見されていたり、遺伝子を用いた解析が用いられたり、研究が進められているそうです。

こういった分布拡大の様子から、現在の気候変動が森林に与える影響を予測できるとされており、環境指標の面からも森林保護の重

要性がうかがえます。

【ヒグマの痕跡】

北海道の森林で気を付けなければいけない動物といえばヒグマです。私はまだ一度もヒグマに出会っていませんが、OJTや業務で現場に出る中で、ヒグマの痕跡を見る機会は非常に多いため、それらを見るたびに対策の必要性を再認識しています。



ヒグマの足跡

【最後に】

OJTを受けて樹木の名前が分かるようになったと思いきや、冬が来て落葉すると森林の様相もガラッと変わり、冬の調査では樹木の判別に一苦労でした。

新しい学びを得ることを楽しみながら、これからも業務に励んでいきたいと考えています。